

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和4年度 第3回入間市総合教育会議
開 催 日 時	令和5年3月24日(金) 午後1時00分 開会、午後2時30分 閉会
開 催 場 所	市庁舎B棟5階 全員協議会室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	市長 杉島理一郎 教育長 中田一平 教育長職務代理者 高山茂 教育委員 橋本清美 教育委員 齋藤良徳
欠席委員(者)氏名	教育委員 山本和人
説明者の職氏名	教育部副参事 (教職員指導担当) 金岡広道
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 報告事項 コミュニティ・スクールの取組状況について 4. 協議事項 部活動の現状について 5. その他 6. 閉 会
傍 聴 者 数	1人

配 布 資 料	資料 1-1 「コミュニティ・スクールの取組状況について」 資料 1-2 「令和 5 年度コミュニティ・スクール委員構成（案）」 資料 2-1 「部活動の現状について」 資料 2-2 「令和 4 年度 中学校部活動一覧表（部活別）」
関係者職氏名	○教育部 教育部長 浅見嘉之 教育部次長 佐藤政史 教育部参事兼学校教育課長 遠藤敏 教育部副参事（教職員指導担当） 金岡広道 教育総務課長 村田雄一 教育総務課主幹 千葉茂 教育部社会教育課長 吉川哲夫
事務局職員職氏名	○企画部 企画部長 岩田正博 企画部次長 栗原康友 企画部参事兼企画課長 黒木聡子 企画部副参事（政策担当） 亀田一生 企画課主査 金子淑子 企画課主事 増田裕太
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

<報告事項>

コミュニティ・スクールの取組状況について

令和4年度に2中学校区をモデル地区として先行して開始したコミュニティ・スクールの取組状況や令和5年度の取組予定について報告を行った。

<協議事項>

部活動の現状について

市内中学校における部活動や外部指導者の現状について説明し、それに対して市長、教育長及び各委員が意見交換を行った。

会 議 録 （ 3 ）

発 言 者	発 言 内 容
	<p>（委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する）</p> <p><進行：企画部長></p> <p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶</p> <p>3. 報告事項</p> <p> コミュニティ・スクールの取組状況について</p> <p> 報告事項について教育部より説明を願う。</p>
企画部長	
教育部副参事 （教職員指導担当）	<p>コミュニティ・スクールの取組状況について説明する。</p> <p>（資料 1－1、資料 1－2 を説明）</p>
企画部長	<p>ただ今の説明について、質疑等はあるか。</p>
市長	<p>モデル地区においては、どのようなテーマで話し合いを行ったのか伺いたい。また、令和 5 年度に全地区導入した後の、テーマや開催頻度等の運営方針は決定しているか。</p>
教育部副参事 （教職員指導担当）	<p>モデル地区では、学校のグランドデザインを踏まえて課題となっていることを抽出し話し合いを行った。令和 5 年度においても、こちらからテーマを設定することではなく、各地区で地域の実情に合ったテーマを設定することとしている。開催頻度については、年 3 回を原則としている。1 回目が学校の運営についての「承認」、2 回目が課題についての「熟議」、3 回目が「評価」となる。必要に応じて 4 回まで開催できるよう予算措置し</p>

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	<p>ている。</p> <p>これまでの学校評議員は学校運営に対し自分の意見を申し述べるだけだったが、子どもたちのためにどうしていくのがよいか、未来志向で、施策について前向きな意見交換ができるのはよいことであり、コミュニティ・スクールの意義と考えている。一方で、中学校区ごとの会議体で、参画する小・中の校長が、皆同じベクトルを向いているとは限らない。先生ごとに優先順位が異なる中で、同じ方向を向いていないと、運営において難しい部分があるのではないかと。また、多様性の時代にあって、必ずしも同じ方向を向いていることがよいとも言い切れない部分もあり、匙加減が難しい。中心となるまとめ役をどのように考えているか。</p>
学校教育課長	<p>本市では小中一貫教育を進めており、各中学校区で目指す児童・生徒像を設定している。学校評価の中で課題となったものを目指す児童・生徒像と照らし合わせて、テーマを設定するのが一つポイントとなる。令和5年度に開所する地区センターの力も借りながら、地域と学校で協働し、子どもを支えていく体制を構築していきたい。</p>
高山委員	<p>委員構成（案）を見ると、様々な立場の人が集まっている。足並みを揃えられるか、意見をまとめていけるか、学校経営につなげていけるか等、進めていくうちに見えてくる課題もあるのではないかと。地域の特性やニーズを踏まえた上で、それぞれの考え方が混ざり合いながら、どうすれば子どもたちの健やかな成長につながるか、未来志向で考えていけるとよい。</p>
齋藤委員	<p>年3回の会議とのことだが、①承認、②熟議、③評価はどのようなタイミングで行うのか。また、地域学校協働本部の状況についても伺いたい。</p>

発 言 者	発 言 内 容
教育部副参事 (教職員指導担当)	3月末に委員を選出し、4月の教育委員会定例会で承認をいただく予定である。早い地区では5月から会議を開催する想定である。第2回以降の開催のタイミングについての規定はないが、概ね各学期に1回の開催を予定している。
社会教育課長	地域学校協働本部については、今年度、金子中学校区、東金子中学校区をモデル地区として着手し、金子地区では2月に地域の方を呼んで本部立ち上げのための会議を行った。今年度は顔合わせまでで、実際に動きが出るのは令和5年度からとなる。他の地区については令和5年度にメンバー選定のため地域団体の洗い出し等を行い、地域学校協働本部立ち上げを進めていく予定である。
齋藤委員	令和5年度に本部を立ち上げる地区では、実際に動き出すのは令和6年度からということになるか。
社会教育課長	令和6年度からになる地区もあるかもしれないが、少しずつ体制を整えていきたいと考えている。
橋本委員	藤沢地区の地域団体「ふじさわ未来ネット」の活動に参画している。既に数年前から地域住民が主体的に集まって中学校との連携体制を構築し、先生方の力も借りながら、子どもたちはボランティア活動を通して地域活性化に取り組んでいる。コミュニティ・スクールは子どもたちのために話し合う協議体だが、そこに子どもが参画していない。大人が協議・相談して進めていくのではなく、中高生が主体的に活動して大人がバックアップしていくことが、子どもの豊かな成長や人生設計につながっていくと思われるため、子どもも協議や活動の場に入り、企画から携われるような体制が望まれる。部活動に関することも本日の議題としてあるが、入りたい部

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	<p>活動のない子が地域活動に参加しているような事例もある。部活動を通して得られる体験を、地域活動の中でも得ることはできていると考えている。地域の人との関わりの中で子どもたちが多くを吸収できるとよい。</p> <p>地域学校協働本部には必ずコーディネーターが置かれるが、コミュニティ・スクールでは座長を設定するか。また協議テーマは誰が設定するか。</p>
教育部副参事 (教職員指導担当)	<p>委員の中から会長を選出することとなっている。テーマについては、今年度、モデル地区においては各校長が校区の課題を話し合って設定した。はじめは学校について熟知している校長間で話し合ってテーマを設定していく方がよいと思われるが、ゆくゆくはメンバー間で協議テーマを出し合い、話し合っていくことが望ましいと考えている。</p>
高山委員	<p>コミュニティ・スクールのメリットは、校長主体ではなく、地域の方の意見を取り入れながら、地域の中で子供たちをどう育てていくのがよいか話し合える点にあると考えている。テーマについても、地域からの発信される体制が構築されるとよい。</p>
教育長	<p>令和5年度については、設立当初という点を考慮し、校長のビジョンや学校のグランドデザインについて説明し、承認をいただくところからスタートする。承認されたものに対して課題等を熟議し、評価を受ける流れで進めていきたい。評価の中で学校経営や次年度のテーマについて委員から意見をいただき、令和6年度からはそれを踏まえて次年度のテーマを設定したり、ビジョンやグランドデザインの設定に活かしたりできるとよい。</p>
市長	<p>これまでの学校評議員は外部監査的であったが、これからは地域と学校がお互いに相乗効果をもたらすような関係の構築が望まれるという点で、</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>コミュニティ・スクールは非常に重要な取組と考えている。地域側が学校に関わる際のマナーについても考えていく必要も想定される。学校内での活動が豊かになるとともに、地域に子どもが出ていくことで活性化がもたらされるとよい。協議の方向により学校が委縮することのないよう配慮されたい。</p>
高山委員	<p>学校の独自性が失われてはいけない。学校経営の責任者として、校長自身の理念を持って取り組む必要がある。</p>
企画部長	<p>本件は今年度スタートしたばかりの取組であることから、節目ごとに進捗報告をいただくこととして、報告事項については終了とする。</p>
企画部長	<p>4. 協議事項</p> <p>部活動の現状について</p> <p>協議事項について教育部より説明を願う。</p>
教育部副参事 (教職員指導担当)	<p>部活動の現状について説明する。</p> <p>(資料2－1、資料2－2を説明)</p>
企画部長	<p>意見交換を行う。委員の意見をお願いする。</p>
市長	<p>部活動のあり方は、全国的に議論がなされている課題である。外部指導者の方々は大変ありがたい存在であるが、どこまで踏み込んでよいか等、指導者としての立ち位置に悩まれているという話も聞く。地域移行に際しては、よく議論し、コンセンサスをとって進めていく必要がある。教員の負担軽減を地域に押し付けていると受け止められないあり方が重要と考えている。市としても対処できることをよく考えて移行していく必要がある</p>

発 言 者	発 言 内 容
教育長	<p>と感じている。</p> <p>私が教諭として着任した昭和57年当時は、すべての中学校が朝練をしており、土日も両日活動していた。土曜日が週休日となって週末の部活動のあり方に変化が生じるようになり、現在は、生徒数の減少や、顧問や活動場所の確保が難しいという要因から、すべての学校にすべての部活動が設置できない状況にある。外部指導者の方々については、子どもが好きという思いやスポーツや文化の振興という視点でご尽力くださっているが、外部指導者登録枠の40人が埋まらない状況が続いている。基本的には朝練を実施しないという学校もあるが、大会前や日没の早い時期等に地域の状況や子どもたちの意見も踏まえながら朝練を実施している学校・部活動もある。部活動の地域移行については、議論を深める中でよりよい体制を構築していきたい。ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
高山委員	<p>戦後の日本においては、特に学校体育や企業体育により、国全体の体育やスポーツ色を高めてきた。ヨーロッパにおけるクラブチームを中心としたスポーツの養成とは異なっている。学校スポーツが日本全体の体力を高めることに寄与しており、先生方の尽力による部活動の指導がその根底にある。昨今、教職員の働き方改革等の視点から、部活動のあり方が議論されているが、部活動の教育的意義についての議論がなされていないことに大きな懸念を抱いている。部活動は教育課程外にも関わらず、教育活動の一環として全国どこの学校にも設置されている。中学校における部活動は教育活動をする上で大きなウェイトを占めており、その影響力も大きい。教育の質を担保・向上するために教員の働きやすさや負担軽減は大切だが、地域移行だけを重視してしまうと、部活動の教育的意義が抜け落ちてしまう。部活動の果たしてきた教育的意義を理解し、それをいかに補うかという点も十分に議論した先に地域移行があるべきと考えている。そうで</p>

発 言 者	発 言 内 容
齋藤委員	<p>ないと子どもたちの健やかな成長が保障できなくなってしまう。また、すべての先生が部活動を負担と感じているわけではなく、部活動を通して人間育成をしたいために教職に就いた先生も一定数存在するということは知っていただきたい。</p> <p>クラブチームの指導者も様々で、立派な指導者も当然いるが、勝ち負けにこだわる方もいるのではないかと。先生方の教育的意義に基づいた指導に、そういった外部の方の助けを借りていく方がよいと考える。理想的なかたちを考えると、各校の各部活動に2～4名程度の外部指導者がいれば、先生方の負担は減るのではないかと。外部指導者が増えれば、先生の負担を増やさずに教育的意義を確保できるのではないかと。少年相撲クラブの監督に聞いた話では、力士経験のある監督が率いるチームは大会会場の片付けもせずに帰ってしまうそうだ。人間育成の場であることも踏まえ、そういった指導者の教育的スタンスの差異についても考慮されたい。</p>
橋本委員	<p>入りたい部活のない子もいれば、家庭環境によって部活に入れない子もいる。学校・家庭・子どもの真ん中にあるコミュニティ・スクールによる取組の中で、部活によって得られる視野を得られ、豊かな人間性を育てられるとよいのではないかと。視察で訪れた石川県、青森県、秋田県等では過疎化を課題として捉え、人口流出を防ぐため、地域で子どもを育て、地域内で進学、就職させられるように取り組まれている。部活動の指導をはじめ、子どもと関わる人材には、人に寄り添える人間性が求められる。今までの部活動の継続という考え方だけではなく、地域との関わりをコミュニティ・スクールで生んでいくことができれば、これから変わっていく部活動のあり方とリンクしていくのではないかと。</p>
高山委員	<p>地域移行により、部活動に費用負担が発生するようになると、経済的理</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>由で入れない子が出てきてしまう。経済格差が教育格差にならないように配慮していく必要がある。</p>
企画部長	<p>地域移行により、経済的な負担が生じるようなあり方について、国等の方針において言及があるか。</p>
教育部副参事 (教職員指導担当)	<p>基本的に、経済格差によって、部活動への参加に格差が生じるようなことはあってはならないと認識しているが、現時点では国や県等からの方針は示されていない。</p>
市長	<p>地域移行により指導をプロにお願いすると、現在の報償費では不可能である。学校の先生以外のボランティアでは専門性や教育的な質の担保ができない。まさにトレードオフの状況にあり、一律の方針を定めるのは難しい。現在のスキームにおいても、外部指導者の方は思いを持って部活動の指導にあたってくださっている。専門性の有無にかかわらず顧問の先生が教育的な側面で指導をする体制の中に、地域にいる外部指導者の方が入ってくるというかたちを広げていければ、コミュニティ・スクールの強化にもつながっていくことと思うが、そもそも外部指導者のなり手がいないという点が課題と感じる。</p>
高山委員	<p>学校の管理下における部活動であれば、スポーツ振興センターの災害共済給付の対象となるが、地域移行した場合に、どこまで対象になるかという課題もある。</p>
市長	<p>民間スクールに水泳の授業を委託するモデル事業を実施しているが、専門性や安全性、施設整備等の観点から、委託費用をかけてでも実施する利点がある。部活動は任意の活動だが、事実上は強制加入とも言える側面も</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>あり、モチベーションにも個人差が生じてしまうのではないか。教育的観点からの議論の中で、部活動の意義、位置づけを整理していくことが望まれる。</p>
高山委員	<p>退職した教員を活用するということも考えられる。</p>
市長	<p>県議会議員を務めていた頃、当時の県の教育長は「勉強・部活・生徒会三兎を追え」と言っていたが、私自身は子どもたちがそれぞれ得意分野で活躍できればよいのではないかと、その思いもある。各活動における評価が受験において影響してくる面もあるが、部活動の成果は正当に評価されているとは言い難い。</p>
高山委員	<p>部活動の成績が受験で評価されすぎるのは望ましくない。部長等の役職や大会での成績は評価基準が明確になり得ず、ナンセンスである。</p>
教育長	<p>小学校と中学校の最も大きな違いは部活動の有無である。今方針として示されているのは、休日の部活動の地域移行だが、いずれ活動がすべて地域に移行した場合に、中学校の存在はどういった役割なのか、教育的意義はどこにあるのか、といった点がまったく議論されていない。部活動は教育課程外ではあるが、学習指導要領の総則においてその意義が謳われている。既に地域移行を試行している自治体もあり、高額な謝礼が必要になる場合もあると聞いている。経済的格差が教育的格差につながりかねないと憂慮するところである。部活動という狭められた視点から検討が始まっており、教育という大きな枠組みに視野が広がっていないことにも問題があり、大変複雑な課題と感じている。</p>
企画部長	<p>教育的意義の議論が不足している点が課題として認識されるところであ</p>

発 言 者	発 言 内 容
教育長	<p>る。国の方針が見えない中で市としてのアプローチが難しいこととは思いますが、入間市において、その点の議論を進めていくといった考えは現時点であるか。</p> <p>先日、部活動の地域移行に関して情報交換会を行った。退職教員の活用という案も出たところだが、教員の配置でも定年退職者を活用して、どうにか体制を組んでいる状況にある。国や県に先駆けて独自に対処していくのは難しいというのが率直なところである。当市の中学校の先生方は大変熱心で、県が示す部活動のガイドラインより力を入れて取り組まれている。オンラインで各校の生徒と意見交換をする場において、部活動の地域移行について生徒の意見を聞いてみたところ、大きく二つに分かれており、「先生方も大変なため仕方ない」という意見もあれば、「できれば余暇の時間も子どもと関わりたいという熱意のある人に先生になってほしい」という意見もあった。子どもたちも、この件に関して、真剣に考えているということも知っていただきたい。</p>
市長	<p>継続的に指導をする、部活動に関わるのは難しくても、年に1度、任意の時期に指導に来てもらえるような簡易な登録制度があれば、指導者の母数を増やすうえでは有効ではないか。</p>
教育長	<p>教職員の半数は、「現在行っている教育的観点に基づいた部活指導と同じような配慮を、地域移行した活動において担保できるとは考え難い」という意見を持っている。一方で、これまでと同じような部活動を、この先も継続していくのは難しいという考えを持つ教員もいる。市長の提案のように、指導者の母数を広げて、その中からピックアップしていくというあり方は有効と思われる。</p>

発 言 者	発 言 内 容
市長	単発でも関わってもらえる指導者がいれば、先生方の負担軽減につながるのではないかな。
齋藤委員	大学生に手伝ってもらうのもよいのではないかな。卒業生等、何らかのつながりがあれば、関わってもらうことも可能ではないかな。
企画部長	現段階では、まずは外部指導者の母数を広げていく方策から着手していくのが有効と見える。当市は総合戦略において「元気な子どもが育つまち」を標榜している。本件については、今後の動向に合わせ、また意見交換の機会を設けたい。
企画部長	5. その他 委員より何かあれば発言願う。
齋藤委員	学校を訪問する中で施設の老朽化を目の当たりにしている。今以上に施設整備の予算を確保することは難しい面もあると理解しているが、先日、熊本市の教育長の話进行中で、「稼ぐ学校」「稼ぐ教育委員会」という考えが示されていた。入間市でも、学校や教育委員会が「稼ぐ」ことにより、施設整備の経費を生み出すことはできないか。例えば、入間基地の航空祭は、毎回駐車場が不足になる人気のイベントである。近隣の東町小学校、東町中学校や豊岡中学校の校庭等を駐車場として貸し出し、収益を得ることはできないか。また、各学校の周年行事において保護者に寄附を募っているが、それを特定の学校を指定して入間市に寄附することで、保護者が寄附金控除を受けられるようなスキームを構築することはできないか。
市長	指定寄附は可能と認識している。市の歳入としていったん受け入れたも

発 言 者	発 言 内 容
企画部副参事 (政策担当)	<p>のを、各学校の予算として配分することに関しては、企画部で整理することになると思うが、前向きに検討してよいのではないか。</p> <p>教育委員会や学校サイドの考えも踏まえて検討したい。</p>
教育長	<p>学校施設の目的外使用となるため、各校長の判断となるが、学校施設を活用して「稼ぐ」という視点もこれからは必要と考える。結果が子供達に返ってくるのであればよい。</p>
高山委員	<p>学校長としては、教育活動に支障が出ないということが大前提である。貸し出したことがその学校における教育予算につながっていくのであれば、検討の余地がある。</p>
企画部長	<p>本件については、担当課で可否を確認のうえ、検討することとする。</p>
企画課長	<p>連絡事項として、事務局より、次回の総合教育会議の日程について申し上げます。</p> <p>今年度の総合教育会議は、今回で終了となる。令和5年度についても、各学期1回の開催を予定している。開催日等が決まり次第連絡する。</p>
企画部長	<p>6. 閉会</p> <p>以上で閉会とする。</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>令和5年 5 月 16 日</p> <p>市 長 の 署 名 杉 島 理 一 郎</p> <p>教 育 長 の 署 名 中 田 一 平</p>	